# たもんじ交流農園便り

2025年9月号 Vol.90

## 猛暑を越えて　なすが実る！　達成間近！
## たもんじ産“寺島なす”大増産計画「たもN4000」

昨年は気象変動による猛暑の影響で、8月半ばには夏枯れし、ほぼ全滅となった“たもんじ産寺島なす”。今年はそのリベンジを果たすべく、大増産計画「たもN4000」（たもんじ産寺島なすを4000個作る計画）に挑戦しました。

今年も昨年以上の猛暑となりましたが、結果は「達成間近」の大豊作！　これはひとえに、農園会員をはじめ、てらたま会員や賛同者の皆さまが、当番制で毎日欠かさず水やりに取り組んでくださったおかげです。協力の輪の中で一体感が醸成され、各会員の畑でも“寺島なす”が例年以上の出来となり、喜びを分かち合えたことが、豊作と同じかそれ以上の成果です！

あらためて、「土作り」「剪定」「追肥」「切り戻し」「水やり」の大切さを実感しました。これも坂本レジェンドのご指導の賜物です。120株超の“たもんじ産島なす”が、7月～8月の最盛期を通して、非常にバランスよく実り、飲食店さん、菓子店さん、そして、イベント用、また、お手伝いしてくれた方、たもんじ交流農園を訪問してくれた皆様と分け合う等々、不足することは一度もなく、無駄なく有効活用できたことが、何よりの喜びです。

てらたま「寺島なす」2024年供給実績・2025年計画

| （単位：個） | たもんじ産 | 農家・仲買人さん | 合 計 |
|---|---|---|---|
| 2024年実績 | 1,564 | 2,124 | 3,688 |
| | | 大増産計画”たもN4000” | |
| 2025年計画 | 4,000 | 1,000 | 5,000 |

一方で課題もあります。今年は地域の農家さんが農地縮小や高齢化でほぼ全滅状態でした。安定供給のためには農家さんとの協働が欠かせません。私たちは生産農家を目指すのではなく、あくまで“寺島なす”の普及活動として続けています。大きな負担は持続不可能です。今年の私は毎日の収穫と配達に追われ、夏はほとんど潰れてしまいました。さらに収穫後の保管も大きな課題で、大きな保冷バックに入れて、保冷剤を朝昼晩と入れ替えて、冷凍庫を占拠して、女房からは、白い眼で睨まれることも…。来年以降は、栽培・保管・配送を分担するチーム体制を整えることが最重要課題です。

とはいえ嬉しいことも数多くありました。配達先の店員さんが、『“寺島なす”美味しいと評判ですよ、いつも配達ありがとうございます。』と笑顔で言ってくれること、新しいお店から、『イベントやテレビ放送で知った“寺島なす”を扱いたい。』と、新しいメニューを考案してくださったこと。こうして“寺島なす”のファンが増えてくれることが、疲れも大変さも吹っ飛ぶ“活力の源”です。“寺島なす”でおもてなす～これからも、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします！（小川剛）

2025″たもんじ産″寺島なす収穫・供給実績　（単位:個）

| | 6 月 | | 7 月 | | 8 月 | | ～9/15 | | 総 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| たもんじ交流農園 | 収穫 | 供給 | 収穫 | 供給 | 収穫 | 供給 | 収穫 | 供給 | 収穫 | 供給 |
| プランター&会員畑 | 126 | 93 | 1,269 | 1,165 | 1,103 | 1,164 | 342 | 395 | 2,840 | 2,817 |
| 共用耕作地 | 39 | 47 | 238 | 227 | 175 | 178 | 37 | 37 | 489 | 489 |
| 駅前プランター | 40 | 40 | 141 | 141 | 81 | 81 | 44 | 44 | 306 | 306 |
| 合　計 | 205 | 180 | 1,648 | 1,533 | 1,359 | 1,423 | 423 | 476 | 3,635 | 3,612 |

供給先別個数・比率

| | | |
|---|---|---|
| 飲食店菓子店 | 2,300 | 64% |
| イベント | 500 | 14% |
| その他 | 800 | 22% |
| 合 計 | 3,600 | 100% |

## 盆踊りワークショップ　大いに盛り上がる！

8/24(日)梅若橋コミュニティ会館で、皆川未来さんが推進する「未来応援プログラム」主催の盆踊りワークショップが開かれ、子どもから大人まで57名が参加、てらたま協議会のゆうさん＆安倍さんご夫妻による「寺島茄子之介音頭」の練習会も行われ、世代を超えて会場は大盛り上がりました。

前半はオリジナルうちわ作り、後半は「隅田川」「花火」「水族館」「スカイツリー」「相撲」の５つのグループに分かれ、各テーマに沿った16節の振付けを即興で考案し披露、他チームの演技を２回見ただけで即本番に臨む挑戦的な企画でしたが、これがなんと「パプリカ」の曲に合わせて見事に揃った踊りになり、大きな感動を呼びました。山本亨区長も一緒に踊ってくださり、笑顔あふれるひとときとなりました。

すみさとPJ
新シリーズ!!

# すみ里レポート　～都会の中の里地里山をたずねて～

## 視察記録②　八広地域プラザ「吾嬬の里」

てらたま協議会　　末林　和之

京成押上線八広駅から徒歩 10 分の立地にある「八広地域プラザ吾嬬の里」（墨田区八広４丁目 35-17）は、小学校跡地を活用して 13 年前に誕生した地域プラザで、会議室や体育館、調理室などを備え、講演会やダンス教室、陶芸体験など多彩なプログラムを展開しています。地域の“お茶の間”として親しまれ、防災拠点の役割も担っています。

様々なプログラムの一つに、約 75 ㎡の畑を活用した「楽しい菜園体験」があり、春夏と秋冬の年２回、野菜作りの参加者を募集しています。特徴的なのは「大根」「ジャガイモ」等野菜ごとの募集で、５種類ほどの野菜それぞれに４～８人の定員で倍率は平均３倍近く。人気野菜はさらに競争率が高く、年２回の募集には毎回 100 人近い応募があるとのことです。応募条件は「最低週 1～2 回は水やりに来れること」だけで、墨田区以外の方も応募可能です。抽選は館内外の掲示に加え区報を通じても告知されています。

春夏と秋冬の間の土づくり等は施設スタッフが行い、参加者は種まき・水やり・雑草取り・収穫といった比較的楽しい作業に集中できる仕組みです。畑には名札が立てられ、自分の担当野菜に愛着を持ちながら世話を続けられます。収穫した野菜はすべて持ち帰り可能。参加費は 500 円と手頃で、収穫の喜びを誰もが味わえます。

栽培する野菜は施設側が選定し、例えば大根は３年あけるなど、輪作を考慮した計画的な農園運営がなされています。この仕組みにより、未経験者でも無理なく参加でき、経験者にとっても「連作障害を考えた作付け」など新たな学びが得られるのが特徴です。

畑に入る際は、窓口で参加者カードを提示し、鍵を借りて入場します。水やりは最低週 1～2 回の来園が求められ、観察日記をつけることで夏休みの宿題のような気分も味わえます。収穫のタイミングは各人に委ねられていますが、「皆で収穫し、調理室で料理して味わう」ような共同体験も今後の課題として模索されています。

また館内では、千葉大学と連携した水耕栽培教室も展開されています。ハーブやレタス、ベビーリーフなどを栽培し、大学の先生や学生による講習も実施。成長が早く成果が目に見える水耕栽培は、利用者が食と科学をつなげて学ぶ機会となっています。

事業推進担当の大熊さんと

畑づくりを通じて人と人が出会い、学び、喜びを共有する。「吾嬬の里」の菜園体験は単なる野菜作りにとどまらず、都市に暮らす人々に“里”の感覚を取り戻させてくれる取り組みです。この小さな畑は地域の絆を育てる根っことなっているに違いありません

今回の体験期間は来年 2/22 まで

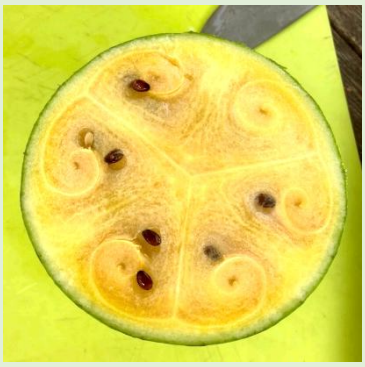
ちょうど春夏ものを収穫した直後でした

**お楽しみ竹あそび**　9/28(日)13:00～　スーパーボールやトミカなどを、竹でコロコロ転がして、竹の花瓶も作ります。**すみだ妖怪ハロウィン**　10/26(日)13:00～(梅若橋コミュニティ会館)　こどもも大人も一緒に仮装して妖怪行列を愉しみましょう。いずれもNPO 法人声とことばの力主催、親子あそび「元気いっぱい」共催　**水口アドバイザーご指導日**：10/12(日)※変更となりました、11/9(日)各 10:00～15:00　**「たんたんタンポ」の稲刈り**：10/12(日) 10:30～　**フリーコーヒー**:10/13(月祝)13:00～(1 時間程度)、**わいわいおしゃべりタイム**：　10/19(日)10:30～**農園部作業日**：毎週日曜 8:30～、

**すみだ青果リレー**「オリジナリー」(東向島周辺) １回目 9/27(土)　２回目 10/4(土)
いずれも 10:00～たもんじ交流農園スタートし、１回目は、鐘ヶ淵通り、いろは通り、八広方面を、２回目は、しらひげ橋方面から、うめわか、大正通り、白鬚神社、百花園、鳩の街から東向島駅周辺を回ります

**すみだ青果リレー**「なす活しようぜ!!」(錦糸町周辺)リハーサル 9/28(日)本番 10/5(日)
墨田区主催のすみだまつり・こどもまつりに参加、10:00～「こどもパレード」参加、10:15「出発式」、押上、キラキラ橋、曳舟、スカイツリー下、石原経由して 14:30 頃、錦糸公園に戻りアンカーの山本区長に繋ぎます。

## “てらたま農園部から”　第 45 回～黄色のスイカ、渦巻きグールグル～



共有区画にグリーンカーテンとして植えた袋栽培の、たった４株のスイカ。 6、7、8 月号としつこくお知らせしてきましたが、今回もスイカネタです。だってホントにすごいんだもの！思いのほか豊作で、本来の目的である日よけより副産物が充実しまくり！ ここ最近は水分補給と称して、毎週みんなで堪能してるの。

で、前々から気にはなっていたのですが、このスイカ、切るとタネの周りに不思議な渦巻きがあるのよね。ある日思い切って輪切りにしてみたら、あら、ビックリ！見事に渦巻きグールグル！！良く見ると三つのお部屋に渦巻き二つ、その周りに種がついてる。そういえば、同じウリ科のキュウリの輪切りってこんな感じだった。葵の御紋に似ているから、と江戸時代には御法度だったと聞いたこともあるな。ググってみると、「スイカの子房（雌花）が受粉後に膨らんで果実に なる過程で、内部にできる子房のらせん状（うずまき状）の構造」と 出た。なんかよくわからんけど、珍しいことではないらしい。植物の 世界は奥深い！これからも畑では、思いもよらない驚きや発見がたくさん待っていることでしょう。そして、それを農園メンバーと一緒に分かち合えることが、何よりの楽しみです。

## すみだで蛍の飛ぶ姿を観たい！

～ほたるのすみかプロジェクト【後編】～
てらたま協議会理事長　牛久光次

2023 年、家庭での蛍の幼虫育成プロジェクトと並行して、いよいよビオトープの環境整備『ほたるのすみかプロジェクト』も開始しました。水をきれいに保ち、アオコを防ぐにはどうすればいいか。１月にメンバーが集まり、キックオフミーティングを経て知恵を出し合いました。生き物に水道水はNG、雨水タンクを設置し隣家の雨樋を借り貯めて流す、井戸を掘って井戸水を吸い上げる、その電源はやはり自然エネルギーのオフグリットで賄いたい。そんな水を循環させる仕組みを検討している過程で、区内の太陽光パネルの専門家、井戸掘りと水車製作の専門家、水車から発電する仕組みをつくる専門家、そして水環境の研究の第一人者であり武蔵野大学客員教授で水ジャーナリストの橋本淳司さんと学生さんたち、更には、池の拡張では防水シートを張り直すため実施した「井戸掘り」「かいぼり」ワークショップに集まってくれた自称“生き物博士”の小学生をはじめとした大勢の子どもたち、と次々と仲間が増え、活動の輪が広がっていきました。雨水タンクの水は水車を回して空気を送り込み、井戸水は桜の木のまわりを段々のトレーで流し、蛍の上陸場まで届ける――そんな渓流風の仕掛けを思い描き、一つ一つが完成していきました。

そして 2023 年４月「ほたるのすみかお披露目＆感謝祭＆お花見」が開催され、山本亨墨田区長をはじめ、多くの方にご参加頂き、農園は大いに盛り上がり、５月には元気に光る何匹かの「たもんじホタル」を確認、 ６月には第 1 回ほたる鑑賞会開催。沢山の方が観に来てくれて、衣服や手に蛍が止まりみんなで歓喜に沸いたました。

しかしながら完成したと思っていた仕組みがところどころでほころびが発見されていきます。水車は設計して手づくりし、仲間の技術で遊星ギアを組み合わせ水力発電にも挑戦しましたが、試行錯誤の連続。池の底地は、ワークショップ形式での作業ゆえ、防水シート破損や水位オーバーのため水漏れが続いたので、結局 2024 年１月に泥団子補修と井戸掘り直しを実施。さらにポンプ選びも難題で、吸い込み力が強すぎて砂を吸い込み停止してしまうこともしばしば。小さなポンプに替え、タイマーを調整するなど工夫を重ね、ようやく雨水と井戸水のバランスが整うまでに１年近くを要しました。2024 年の蛍観賞シーズンは、半分くらい幼虫をビオトープに放したのですが、光は見られたものの残念ながら飛び交う蛍の姿は確認できませんでした。

また水際の植物は水質維持と蛍に欠かせないため、配置を相談しながら植えていきました。2024 年の夏、除草作業で一度は丸坊主になってしまいましたが、その後 2025 年の夏には自然な雰囲気を取り戻しました。ここまで進められたのは、仲間と共に考え行動したからこそであり、造園期から続く「協働の力」を改めて実感しました。

今年 2025 年の夏は、幼虫の上陸場である『ほたるのすみか』への放流は実施せず、成虫となった蛍を放す『ほたるのお宿』をデッキの上に移動して観測するに留まりました。一方家庭での幼虫育成は続いており、光を楽しめた報告もありましたが、産卵や孵化の成功は 2024 年に 100 匹程度が、2025 年は 1000 匹の目標のところ 500～600 匹にとどまり、目標達成には至りませんでした。

しかしここであきらめる訳にはいきません。もっと、蛍に寄り添い、詳しい調査と人工的な成育から自然発生までのプロセスを、水槽飼育からビオトープ内の養殖の方法を、もっと丁寧に研究する必要を感じています。小さな光が再び夜空に舞う日を信じて、闇の中にこそ際立つほたるの光を夢見て、まだ、まだ、ほたるプロジェクトは続きます！

# はじめました!!

## 第６回　栗原さん（区画 11-2）の場合

　サックス――こんなにも楽しく、ハマることになるとは、正直思っていませんでした。きっかけは『たもんじ交流農園便り』３月号。小川さん、富澤さん、須貝さんがウクレレを実に楽しそうに弾いている様子を拝見してびっくり!!　実は私も、皆さんと同じ頃に管楽器と出会い、中学生の音楽の授業以来でしょうか、サックスを吹けるようになりたいと思い、錦糸町の島村楽器のレッスンに通うことにしました。

　音楽初心者の私にとって、楽器の使い方から音符の読み方、音の長さに至るまで、まさに何もかもが初めて。先生はまるで小さな子どもに教えるように、ひとつひとつ丁寧に説明してくださり、できたときはとても褒めてくれて。その言葉に励まされ、嬉しくて少しずつ吹けるようになりました

　今は「いつか先生のピアノに合わせて、人生初めての発表会に参加したい」という目標を胸に、毎週のレッスンが楽しみで仕方ありません。楽器を譲ってくれた息子と、出会えたステキな先生に心から感謝しています。サックスとの新しい時間が、私の生活に彩りを添えてくれています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

## 第７回　向島の家／中山さん（区画 09-1）の場合

　今年も９月半ばとなり、寺島ナス含め、夏野菜たちが畑から消える頃となりました。今年の夏も酷暑。畑に水やりに来ながら、来ている人間への給水（？）にも注意しながらの夏が終わろうとしています。

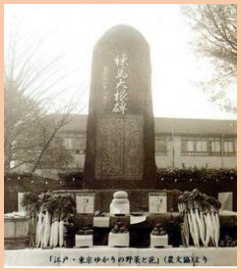
　今年始めたことが二つあります。一つは、他の区画を参考にして区画の真ん中に通路を作り、その分、野菜の育つ所の土の深さを増やしたような形にしてみました。昨夏はナスや他の野菜がバンバン育ち、収穫や手入れの際にはヤブをかき分けなければならず、さらに足元が整地されていなかったため、何度も転んで野菜たちを傷めてしまいました。通路を整地したため、今夏は、『人』が倒れることは、なくなりました。ヤブは相変わらずですが…。

　もう一つは水やりシフトの導入です。夏野菜、特にナスには水が命だと思います。私たちは個人ではなく会社として畑を借りている強みを生かし、運転免許を持ち、現実的に畑に来やすいスタッフ３名で交代制の水やりシフトを組みました。夏の間、毎日誰かが畑に来て水やりをする仕組みです。こうした取り組みが、野菜の出来にも表れているように感じています。

　今年は寺島ナスチーム（？）の水やり当番もありましたね。仕事の特性上、参戦できず、申し訳ありませんでした。朝、水やりにいくと、当番の方が、私たちの区画にも水をやってくださっていたこともありましました。改めて紙面をもって、感謝いたします。これからも、たくさん、元気で美味しい野菜を作っていきたいです。

## シリーズ『江戸の食生活と野菜たち』～第７回～　農園アドバイザー水口均

　全国的に知られている江戸の野菜としては「練馬大根」も有名です。沢庵大根として重宝されたその大きさは有名で、もちろん練馬地区で古くから作られており多くの派生品種もあります。昭和生まれの人であればダイコン足といわれれば練馬大根を思い浮かべる人が多いと思いますが、実は練馬大根は意外とスマートで三浦大根の元となった都大根（練馬大根の一種）がその起源だろうと思われます。現在では全国をほぼ席巻している青首ダイコンも、タキイ種苗が最初に三元交配の最初に名古屋の宮重大根（青首）に練馬大根（白首）を掛け合わせたところから始まっています。


練馬大根碑

　明治以降も練馬大根は沢庵としての需要が多く生産は伸びていき、かなりの量が生産されるようになりましたが、昭和には食生活の変化から徐々に生産が減少していきました。日清・日露戦争時代の陸軍の食事が沢庵とおにぎりという内容で、ビタミン不足による脚気での死者数が戦死者よりも多かったことはあまり知られていません。昭和になり連作障害などの問題もあり「練馬大根碑（1941 年）」が大江戸線春日町駅そばの愛染院の参道脇に建てられた頃にはほとんどの畑がキャベツになっていました。平成の時代になりほぼ全滅していた練馬大根ですが、ずっと種を守り続けていた農家がありました。現在は練馬区の管理の下で採種と品種の保全（形状の維持）を練馬の三人の農家が毎年行っています(第８回に続く)。


たもんじ交流農園便り
№90 般 2025.9.26 発行
題字　田村風來門
編集　末林和之

てらたま協議会
(NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)
問い合わせ先　小川 剛(080-3421-3115)
セブン-イレブン記念財団（2018 年 2020,年に助成金を頂きました）

HomePage　FaceBook